

■ HPV ワクチンとは

日本で年間約 1 万人が罹患する子宮頸がんをはじめとするヒトパピローマウイルス（HPV）関連がんの原因となる HPV 感染を予防する目的で開発されたワクチンです。

■ HPV ワクチンは、本当に子宮頸がんを予防できるのでしょうか？

昨年秋より「HPV ワクチン接種が子宮頸がんを減らした」という報告が海外から相次ぎました。スウェーデンでは、17 歳未満に接種した群で子宮頸がんの発症率が 88%減少しました。イギリスでも同様の結果が報告されています。WHO はワクチン接種と検診で子宮頸がんは撲滅できると宣言しています。先行して接種が始まったオーストラリアは 2060 年に「子宮頸がんが撲滅」する世界最初の国になると言われています。

■ 日本の HPV ワクチン接種はどうなっているのでしょうか？

小 6 から高 1 相当の女子は定期接種のため、無料で接種出来ます。若い時の接種が望まれますが、20 代半ばまでは接種の有効性が高いと言われています。HPV 感染は、子宮頸がんだけではなく、中咽頭がんや肛門がん、陰茎がんなど、男性も罹るがんの原因になります。海外では、男女ともに定期接種になっている国がたくさんあり、日本でも男性の接種が可能です。



■ HPV ワクチンは「怖いワクチンなので打たない方がよい」と思っていました。

導入された当初、接種後に「歩けない」「痛みが続く」などの報道がされました。その後の国内外の調査で、それらの症状がワクチン接種していない方や男性でも起きることがあり、頻度は非常に少ないことがわかりました。ただ、少数ですがワクチン接種後に体調不良になられる方はいらっしゃいます。他のワクチンでも起こることがあり、「ワクチン接種ストレス関連反応」と呼ばれています。痛みや不安がある場合には、横になって接種をするなどの対策を取ることが勧められます。接種後しばらくしてから倦怠感やしびれ・痛みなどの症状が出た場合、別な病気が隠れていないか診察や検査をします。大多数の方は時間が経つと自然に回復します。軽い運動なども効果的なようです。

■ 是非、HPV ワクチン接種をご検討ください。

日本では若い方の子宮頸がんが増えています。命だけではなく、子どもを産み育てるという希望を奪うのが子宮頸がんです。HPV ワクチン接種をご検討ください。

【参考となるサイト】

・日本産科婦人科学会「子宮頸がん と HPV ワクチンに関する正しい理解のために」



・みんなパピ



茨城県医師会ホームページよりダウンロードいただけます。

URL <https://www.ibaraki.med.or.jp/>

検索 「茨城県医師会」 県民の皆様へ、健康いばらきをクリック！

